

<h1 style="font-size: 2em;">指導資料</h1> <p>鹿児島県総合教育センター 令和4年10月発行</p>	<h2 style="font-size: 1.5em;">特別支援教育 第215号</h2>	
	<p>対象 校種</p>	<p>幼稚園 小学校 中学校 義務教育学校 高等学校 特別支援学校</p>

SSPシートを活用した引継ぎと連携 — 特別な配慮が必要な児童生徒の切れ目ない支援のために —

- ◆ 特別な配慮が必要な児童生徒の引継ぎや関係機関との連携については、依然として課題が多く挙げられているため、引継ぎや連携を効果的に行い、児童生徒への切れ目ない支援を行うことが重要である。
 - ◆ 当センターが作成した「SSPシート」を活用することで、引継ぎや連携、情報の蓄積や共有を効果的に行うことができる。
- #引継ぎ・連携におけるモデルプラン #関係機関との連携 #SSPシート

1 引継ぎや連携に関する現状と課題

障害のある児童生徒、日本語の習得に困難のある児童生徒、不登校児童生徒といった特別な配慮が必要な児童生徒等については、学年間・学校間といった縦断的連携と、放課後等デイサービス事業所、他校通級による通級指導教室及び日本語指導教室、教育支援センターなど関係機関との横断的連携による一体的な支援の継続が求められている(図1)。

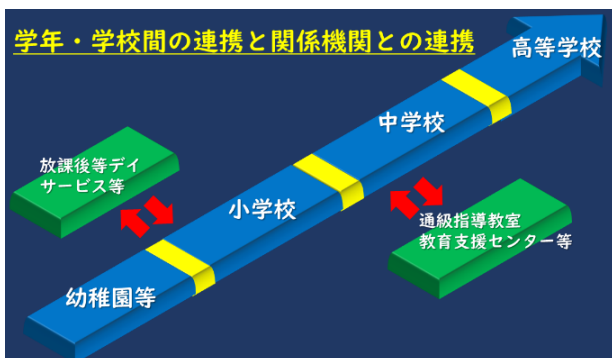


図1 縦断的連携と横断的連携

現在その支援の継続性を保つために、各学校等では、個別の教育支援計画、個別の指導計画、移行支援シート、相談支援ファイルなど、学校間や関係機関等をつなぐ様々な計画

やシートをそれぞれが作成している状況がある。また、幼稚園等と小学校間の連絡会、小学校・中学校間及び中学校・高等学校間での連絡会、関係機関の支援連絡会による児童生徒に関する情報の共有を行う取組が進められている。

令和2年6～8月に当センターが行った、実態調査(調査対象:当センターの短期研修講座を受講した教職員、令和2年度特別支援教育研修課調査研究協力員の所属校の教職員[回答数:小学校187人,中学校68人,高等学校40人,計295人])の結果から、以下のような課題が明らかになった。

- 引継ぎ資料等と実態に差があり、指導に支障をきたすことがある。
- 引継ぎ資料を送る側と受ける側とで、必要としている情報に相違がある。
- 引継ぎ資料が作成されていても、活用が不十分である。
- 学年末の業務や職員の異動等で引継ぎの時間設定が難しい。
- 様々な計画等の内容に重複がある。
- 教職員が様々な計画等の作成に負担を感

じている。

- 学校間や関係機関との連携について、具体的な進め方が分からない状況がある。

2 各接続に必要な情報を共有・協働するためのツール作成の経緯

中央教育審議会答申「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について」(平成31年1月25日)では、学校が作成する計画等について内容の簡素化や複数の計画を一つにまとめることの必要性を述べている。また、文部科学省初等中等教育局長通知「不登校児童生徒への支援の在り方について」(令和元年10月25日)では、不登校児童生徒への効果的な支援については、組織的・継続的かつ計画的に実施することが重要であり、「児童生徒理解・支援シート(参考様式)」を作成することが望ましいと述べている。

前述の答申や通知、学校における引継ぎ・連携の課題を受け、当センターでは「持続可能な支援」を目指し、文部科学省から示された「児童生徒理解・支援シート」のような複数の計画及びシートの統合が必要であると考えた。

そこで、学校間の引継ぎといった各接続で必要な情報を共有・協働するためのツールを作成し、学年間・学校間・関係機関といった校内外における円滑かつ確実な指導・支援の引継ぎや連携の在り方を整理することにした。

3 「SSPシート」の構成と内容

SSPシートは、前述の文部科学省通知「不登校児童生徒への支援の在り方について」の中で示された「児童生徒理解・支援シート(参考様式)」を参考に、当センターで作成したものである。SSPシートは、「Sustainable Support Plan シート」の頭文字を取った名称で、「持続可能な支援」や「効果的な支援のた

めに教職員が計画の作成・活用を継続していくこと」を意図した名称である。このシートは、特別な配慮が必要な児童生徒一人一人の状況を的確に把握するとともに、当該児童生徒の置かれた状況を校内や関係機関と共有し、組織的・計画的に支援を行うことを目的として、学校が作成するものである。

(SSPシートの具体的な様式や記入例については、当センターのWeb ページからダウンロード可。<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/curriculum/tokusikyoku/ssppack/sspkinyuurei.xlsx>)



SSPシート(表)を活用することで、次のことが期待できる。

- ・ 支援が必要な児童生徒に関する必要な情報を集約することができる。
- ・ 支援の計画について、学校内や関係機関で共通理解を図ることができる。
- ・ シートを進学先・転学先へ引き継ぐことで、一貫した継続的な支援ができる。
- ・ 複数の計画やシートを統合し、電子化することで、資料作成や引継ぎ・連携における業務の負担を軽減できる。

表 SSPシートについて

共通シート	基礎情報、学年別欠席日数等、支援を継続する上での基本的な情報、家族関係、特記事項
学年別Aシート	支援機関名等(校内・校外)、月別欠席状況、欠席状況等に関する理由、次年度への引継事項
学年別Bシート	本人・保護者の状況・希望、本学年の目標、各学期の個別の支援計画(個別の教育支援計画、不登校児童生徒の個別支援計画)
協議シート	会の記録等(本人・保護者の意向、関係機関からの情報、協議内容等)

SSPシートの作成に当たっては、以下のような点に注意する。

- ・ 作成者の主観的な判断を避け、客観的な事実を記入する。

- ・ 全ての欄を記入せず、必要な情報のみを記入する。
- ・ 持続的な支援体制の確保と教職員の業務負担軽減の観点から、校務支援システム等を活用して、複数の関係職員で情報共有や入力ができるようにする。
- ・ 校内委員会やケース会議等では、SSPシートを会議の資料として活用することで、別途資料を作成する負担が軽減されるようにする。

4 引継ぎ・連携におけるモデルプラン

SSPシートを活用した指導・支援の引継ぎ・連携の在り方に関して、これまでの実践や研究協力員の所属校の課題等を踏まえ、以下のI～IVのモデルプランを提案する。

モデルプランⅠ 指導・支援の開始

指導・支援の開始に向けて、担任や保護者、関係する教職員がSSPシートを活用しながら、どのように連携を進めていくかを示したものである。指導・支援の開始に当たっては、本人や保護者と十分に対話をする。また、関係する職員で情報共有や話し合いを進めるなど、チームでの対応に努める(図2)。

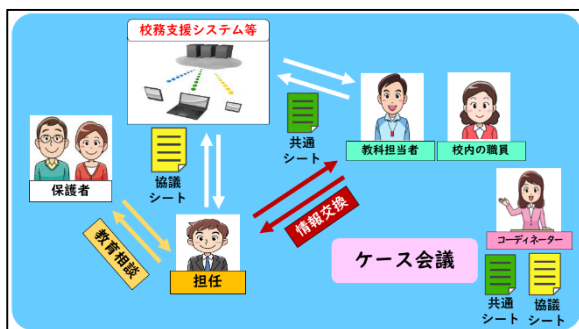


図2 モデルプランⅠ 指導・支援の開始

モデルプランⅡ 学年間引継ぎ

SSPシートのデータを学年間の引継ぎにどのように活用していくかを示したものである。学年間の引継ぎを円滑に進めるためには、年間を通じた情報共有とその蓄積が大切である(図3)。

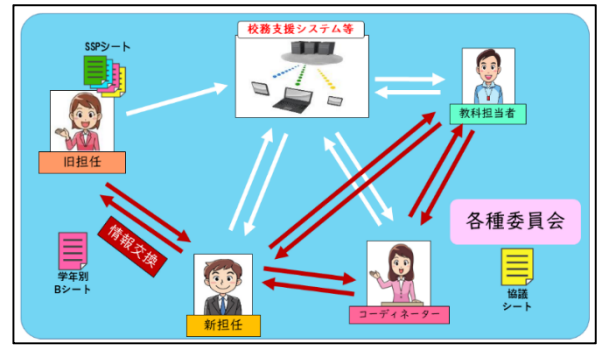


図3 モデルプランⅡ 学年間引継ぎ

モデルプランⅢ 学校間引継ぎ

SSPシートのデータを、学校間の引継ぎにどのように活用していくかを示したものである。学校間の引継ぎをSSPシートのデータで行うことで、進学先における新たな資料作成や引継ぎ・連携における業務の負担を軽減したり、必要な時期に情報を共有したりすることができるようにする(図4)。

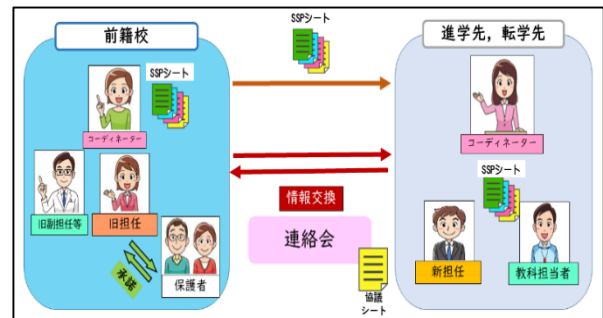


図4 モデルプランⅢ 学校間引継ぎ

モデルプランⅣ 関係機関との連携

SSPシートを活用した、関係機関との連携の進め方を示したものである。連携の窓口となる担当者を明確にし、連携について保護者と十分に確認しながら進めることが大切である(図5)。

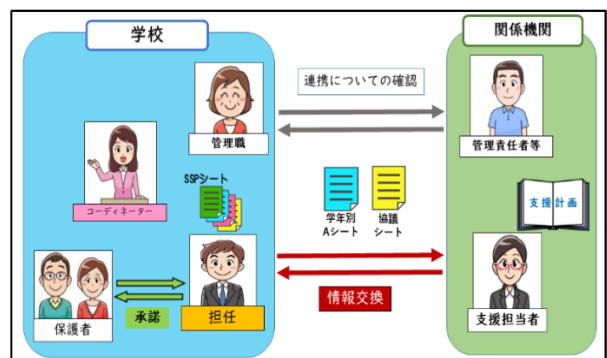


図5 モデルプランⅣ 関係機関との連携

このⅠ～Ⅳのモデルプランを基に、実際の引継ぎや連携に取り組んだ研究協力員の実践事例を以下に紹介する。

5 モデルプランを基にした実践と成果

- (1) 実践①「モデルプランⅡに基づいた不登校傾向の生徒（中学2年生）に関する実践」

<実践>

生徒に関係する旧担任、養護教諭、部活動顧問から情報を集約し、基礎情報や個別支援計画の内容、前年度からの引継ぎ事項、聞き取りから得られた内容をSSPシートにまとめた。SSPシートを学年部会で共有し、支援や教職員の具体的な連携の在り方を確認した。

キーパーソンとなる友人や養護教諭が中心となってSSPシートで確認した情報や支援を踏まえながら対象生徒に関わることで、行事の準備に関する学習に取り組んだり、修学旅行等の学校行事へ参加したりできるようになった。

<成果>

- SSPシートの活用は、校内の複数の教職員が持っている情報の整理や指導・支援の経過の記録を行うのに効果的であった。
- 関係教職員がSSPシートの情報共有を基に、一貫した対応を行うことで、特別な配慮が必要な生徒への効果的な支援に取り組むことができた。

- (2) 実践②「モデルプランⅢ・Ⅳに基づいた障害のある児童（小学6年生）に関する実践」

<実践>

放課後等デイサービス事業所訪問や関係機関との連絡会等を実施し、SSPシートを情報の集約や会議の記録として活用した。その後、中学校への引継ぎに当たって、保護者、進学先の中学校とのケース会を実施した。その際、SSPシートを使って具体的な引継ぎ

内容の確認や中学校での具体的な支援について共通理解を行い、小学校で行われている指導・支援が進学後も継続して行われるようにした。

<成果>

- モデルプランに基づいて進学先の学校や関係機関との連携に取り組んだことで、保護者の安心感や児童へのよりよい支援につながった。
- 支援に関する情報や連携の記録等は、SSPシートを活用することで、一括して整理・蓄積ができ、引継ぎに活用できた。

6 「学校間等接続のための支援パッケージ」について

本資料で紹介した「SSPシート」、「モデルプラン」、「研究協力員の実践の詳細」については、「学校間等接続のためのパッケージ」として、すぐに各学校で活用できる形で公開している。当センターのWebページ(<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/curriculum/tokusikyoussp.html>)からダウンロードできる。特別な配慮が必要な児童生徒の指導・支援の引継ぎや関係機関との連携に是非活用していただきたい。



－参考文献－

- 中央教育審議会『新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について（答申）』平成31年1月25日
- 文部科学省初等中等教育局長『不登校児童生徒、障害のある児童生徒及び日本語指導が必要な外国人児童生徒等に対する支援計画を統合した参考様式の送付について（通知）』平成30年4月3日
- 文部科学省初等中等教育局長『不登校児童生徒への支援の在り方について（通知）』令和元年10月25日
- 鹿児島県総合教育センター『研究紀要126号』令和4年3月

（特別支援教育研修課 古村 洋介）

※本資料では、UDフォントを使用しています。